



市民共同発電サンサンすいた

この夏の厳しい暑さ・台風災害の激甚化の原因が、海水温の高さや地球温暖化だと報道でも皆言うようになりました。そして、この気象が常態化していくと…。しかし「どうしたらよいのか」という事が、報道では抜け落ちているように感じます。この紙面では「どうしたらよいのか」取組等の情報提供をしていきます。(井上)

設立臨時社員総会と記念講演会を開催しました！

7月21日（日）に吹田のラコルタにて設立臨時社員総会と記念講演会が、多くの参加者のもとに行われました。

まず設立趣旨書と定款の確認をし「気候危機を止めたい、そのために再エネをもっと増やしたい」という想いを会場の皆さんと共有し、具体的な市民共同発電事業の仕組みの説明を行いました。その後、参加者からは活発な質問意見も出されました。

和田先生の設立記念講演では、大規模の利益優先開発ではなく、地域分散的で地域に利益が還元でき、地域のまちづくりとして取り組める「市民共同発電」が、再エネ拡大のために今必要なこととの話がされました。(詳細はサンサンすいたHP参照)

講演会後のランチ懇親会も含めて様々な意見も出され、「進捗状況など、なるべく皆で共有し、オープンな会にしていってほしい」「事務作業など含めて、皆で分担し作っていく会にしていけたら」などの意見とともに「具体的な事業実施場所との話し合いにぜひ参加していきたい」と積極的な意見も多く、今後、皆さんの知恵と工夫と行動で、吹田に市民共同発電を広げていける力を感じることができる会となりました！

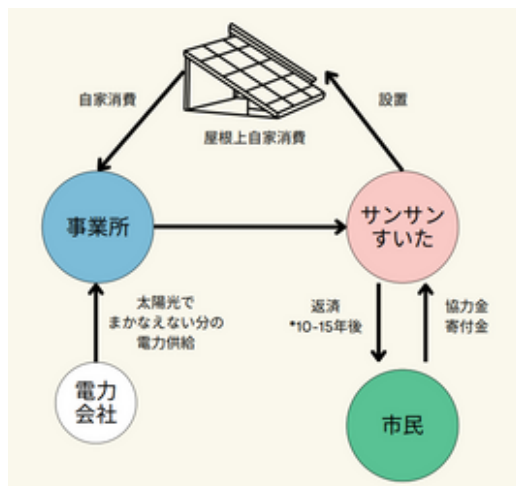


市長よりメッセージ✉

今回の会に先立ち、吹田市長 後藤圭二様より、メッセージをいただきました。時には行政の力も借りながら、運動を大きくして行けたらと考えています。

一般社団法人市民共同発電サンサンすいたの設立並びに記念講演のご開催を心よりお喜び申し上げます。講演のご成功を願いますとともに、関係者皆様の今後ますますのご健勝、ご多幸を祈念いたします。

私たちの目指すことと市民共同発電の仕組み



- 01 地球環境を守り未来の世代に渡せる、再生可能エネルギーの市民共同発電所を増やすこと
- 02 広く市民に呼びかけ、市民の参加で実現していくこと
- 03 地域から気候危機への取り組みを広げ、助け合いのある豊かなコミュニティを育むこと

これらを実現するために、サンサンすいたは、設置に必要な資金を市民の協力で集め、事業所の屋根に太陽光発電設備を設置します。

社会福祉法人などの事業所が使用した電気の電気代と売電した電気代を、市民の出資金返済及び事業運営費用にあてます。事業所は毎月自家消費した分だけ、サンサンすいたに支払い、10~15年で初期費用分を返済します。

一定期間（10-15年）が過ぎたら、発電設備は事業所に無償譲渡され、以降は、発電した電気は事業者が無料で使用でき、売電した電気代は収入に。

役員紹介

約1年前のことです。吹田市内でもっと再生可能エネルギーを増やさないといけない、そのためには市民が再エネの普及を望んでいることを行動で示す必要があるよね！ということで関心のある事業者との対話や法人設立の準備を進めてきました。これから皆さまと共に1号機の実現に向けて歩み出して参ります。



美しいだけでなく巧みな自然の仕組みに感嘆し、人間もその一部だとの思いを常に感じます。「試行錯誤しながら自然の仕組みを解明してきた科学の歴史」「協力しながら生き延び社会を作ってきた人類の歴史」を知ると、

今あるのは、過去の多くの人の積み重ねがあったからこそこの思いを強めます。だからこそ、今自分ができることを精一杯、後悔なくしていきたいと思います。

井上 道代 ◆代表理事



昨年の夏は各地で観測史上最高の気温が記録されました。猛暑、水害、山火事などの気候災害が激化し、国内外で多くの命が失われました。予測以上のスピードで気候崩壊の危機が強まり、気候危機対策は待ったなしの

鍵谷 誠一 ◆副代表理事



状況です。脱原発を前提とした再生可能エネルギー100%の社会「気候正義」を実現する公正な社会に向けて市民が立ち上がる時です。エネルギーの地産地消を実現しましょう



今井 絵里菜 ◆理事

日々本業で太陽光発電を扱っているせいか、太陽光発電所を目の前にするとテンションが上がる今日この頃。同じ市内に住むご近所さん同士で月に数度対面で会議をするのが新鮮！事業性検証や広報を担当しています。市民共同発電事業は再エネに関心のある人だけでなく、地域活性や福祉に関わる人たちと共に、自分たちで何か作り上げていく感覚が得られるように思えます。



岩根 良 ◆理事

グレタ・トゥーンベリさんら世界の学生・若者が気候ストライキに立ち上がる姿。ナオミ・クライン「地球が燃えている」などの著作、自然エネルギーに関する講座、飯田市など各地の実践の見学。これらを通じ、気候危機を止める取り組みを地域から、との思いがわき、それを共有する仲間と出会いました。今後、地域の福祉や経済、まちづくりとも結ぶ活動をめざしたいです。



木村 雅英 ◆監事

「地球温暖化から地球沸騰化へ」（国連事務総長）一化石燃料の使用をいま削減しなければ、取り返すことができない事態を招く。誰もが否定できない事実なのに一向に進まないエネルギー政策の転換。でも一市民でもできることがある、それが「市民共同発電」と知って私も一歩ふみだしました。「熱」のある若い仲間の背中をみながら、微力ですが輪を広げる役割を果たそうと思います。

市民共同発電所 視察日記#1



毎号でメンバーが訪問した市民共同発電所の紹介をしていきます。全国で2番目の市民共同発電所が滋賀県湖南市にあります。7月20日に記念講演をして頂いた和田先生も中心となり、一口20万円で25人が協力して、知的障害のある方も働く作業所の屋根上に太陽光パネルを設置、「てんとうむし1号」と名付けられ、現在も発電を続けています。（今井）



湖南市には他にも別の事業者が手がけた市民共同発電所がいくつかありました。左はまちづくりセンターのカーポート一体型の発電所、右は温泉施設の屋根上に設置されたもの。